

北九州らしい「学術・研究都市」をめざして*

Aiming at Establishing Science and Research City
: Kitakyushu Original Version

丹 田 健 二 **
By Kenji TANDA

1. はじめに

北九州市では、昭和63年12月に『北九州市ルネッサンス構想』を掲げ、21世紀に向けて「水辺と緑とふれあいの”国際テクノロジー都市”」として位置づけ、5つの都市像を設定しました。

この5つの都市像の1つである「未来をひらくアジアの学術・研究都市」の実現を目指している北九州学術・研究都市整備構想について紹介します。

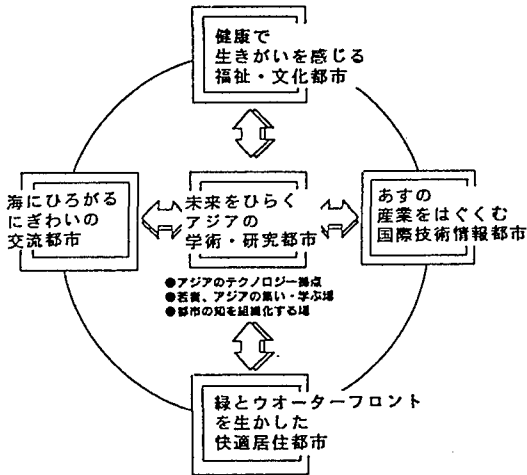


図-1 ルネッサンス構想の5つの都市像

2. 学術・研究都市整備構想のねらい

本構想のねらいは、首都圏や関西圏に比べて不足している学術・研究機能を充実し、地域文化の向上・人材の育成を図ると共に、若年層の流入・定住を促進しようとするものです。

更に近年、本市は基礎素材型産業の生産基盤から産業構造の転換を図っていますが、近代産業の成長

過程で、蓄積した技術という大きな遺産を持っており、これらをベースに、21世紀に向けて、創造的な産業都市として再生するために、学術・研究機能と産業界との連携を図り、先端技術開発の環境整備を行い産業の高度化、高付加価値化及び知識集約化に寄与しようとするものです。

加えて、本市が今後目指すべき方向であるアジアとの関係を強化し、アジアにおける学術・研究の拠点形成を目指すものです。

3. 位置付け

国は、多極分散型の国土形成を目指し、「第四次全国総合開発計画」のなかで、九州北部地域での新しい研究学園都市の建設をうたっています。また、福岡県・佐賀県において「九州北部学術研究都市整備構想」（アジアス九州）で、各拠点都市の広域的ネットワークによる、研究学園都市づくりが進められ、北九州市もその中核的な役割を担っています。

北九州学術・研究都市は、こうした国・県の関連計画と連携し、全国とアジアと連動した街づくりを行います。

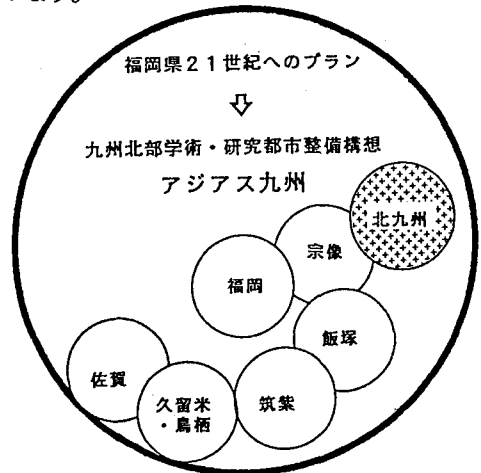


図-2 福岡県・佐賀県の位置付け

* キーワード 地域計画 プロジェクト構想

** 北九州市建業局学術・研究都市整備室開発課

(〒803 福岡県北九州市小倉北区城内1-1 TEL 093-582-2698)

4. 北九州学術・研究都市整備事業
(拠点整備地区)

(1) 地区の概要

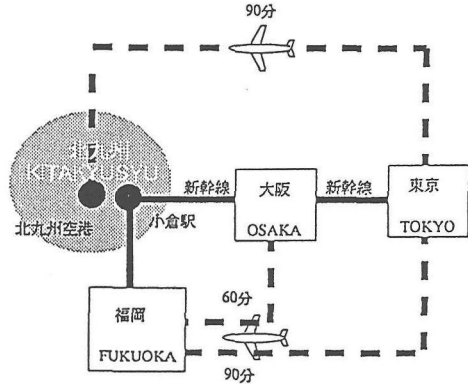
① 位置

本地区は、北九州市域の西北部に位置し、若松区西部、八幡西区北西部にまたがる区域で、都心である小倉から西北西へ約16km、J R折尾駅から北へ約2 km、J R黒崎駅から北西へ約5 kmに位置します。

② 交通アクセス

鉄道：最寄り駅はJ R折尾駅

バス：J R折尾、黒崎、若松駅への路線



●新幹線(のぞみ)所要時間



●北九州学術・研究都市までの時間

小倉駅より	車で35分
北九州空港より	車で45分
福岡空港より	車で65分

図-3 北九州市への交通アクセス

(2) 事業の内容

既に大学や研究機関が集積している若松区西部と八幡西区北西部を「西部アカデミアゾーン」と位置付け、その中核拠点として「北九州学術・研究都市」の開発整備を行い、新規の大学や研究機関の誘致を進め、今後の技術革新に対応すると共に、良好な環境の中での住宅や地区センターを合せ持つ、産・学・官・市民の連携による複合機能都市づくりを行うものです。本事業は、学術・研究・文化のまちづくりにより、北九州らしさをめざすものです。

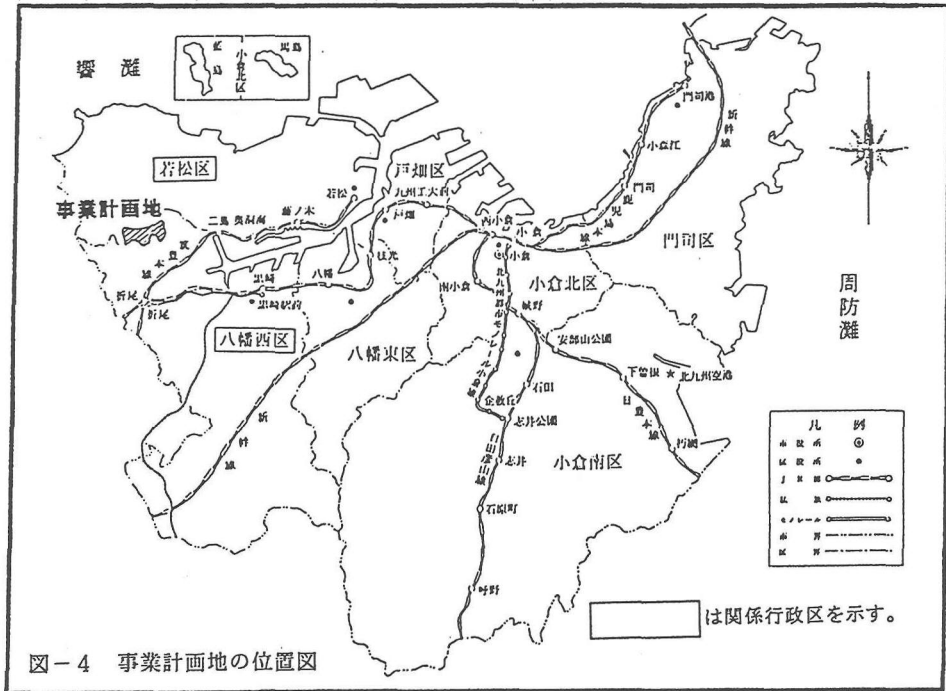


図-4 事業計画地の位置図

(3) 事業概要

- ①開発面積 全体335ha
(その内第1期事業が約121ha)
- ②開発スケジュール
平成17年度完成予定
(第1期事業は平成7年度～平成13年度)
- ③開発手法
先買い用地取得による、土地区画整理事業
- ④事業主体
第1期事業 住宅・都市整備公団
その他 未定
- ⑤住宅戸数 3,000戸
- ⑥計画人口 10,000人
- ⑦施設人口
大学 12,000人
研究所 3,000人
センター 1,000人
沿道施設 1,000人
合計 17,000人
- ⑧総事業費(基盤整備のみ)
約600億円

5. 施設計画

(1) 大学

総合大学の立地を前提とし、単科大学の誘致にも対応できるようにします。

大学の敷地面積は、事例(図-6)を参考にしつつ、緑地等と併せてキャンパスが構成できるように100haとします。

第1期区域の大学(約30ha)については、新大学構想で大学像を目指します。

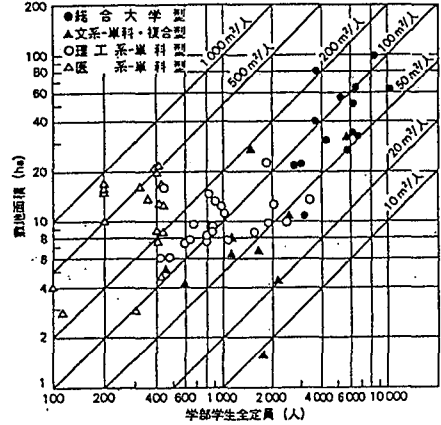


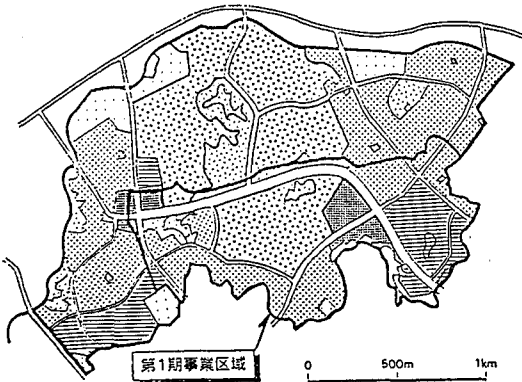
図-6 学生別敷地面積(国立大学)

①新大学構想

●大学の形態…先端技術大学院大学

先端技術の分野において、世界に通用する技術者・研究者を育成するとともに、世界の技術動向をにらみながら、ハイレベルの研究開発を行うことを基本に、以下の観点から大学づくりを進めます。

- ・アジアを見つめた大学づくり(環境問題を初めとする先端技術分野)
- ・研究開発指向の大学づくり(高度な研究開発と研究者等の育成)
- ・新しいタイプの工学教育を目指す大学づくり(基礎学力の重視及び人文・社会教育や実用的な語学教育、高度の専門教育を実施するための6年一貫教育)



□土地利用計画図(案) 総計335ha

●主なもの(単位ha)	研究所	30
● 大学	地区センター	12
● 住宅地	道路	
● 公園・緑地	その他	

図-5 土地利用計画図

(2) 研究所

民間研究所の立地をイメージし、3つの分野を考えています。

- ①都市・人間環境分野…日常の暮らしに近い分野の住宅、資源のリサイクル、交通、運輸、エネルギー、ソフトウェアなどの研究産業
- ②適正技術分野…省エネルギー、公害防止技術、バイオテクノロジー、新素材の研究分野
- ③地球環境分野…宇宙、海洋、環境保全、気象

(3) センター

センターは、西部アカデミアゾーンを支える役割を担うものとし、広域的都市機能の一部を分担することと位置付け、導入施設は以下のように考えます。

- ①学術・研究支援施設…産・学・官の人的交流、会議、展示、研修、短期滞在等の複合機能を有する施設
- ②生活利便施設…スーパーマーケット、小売店舗、診療所、保育所等の集積施設
- ③文化レクリエーション施設…地域に不足している社会教育、文化施設及びスポーツレクリエーション施設

(4) 住宅地

住宅地は東京や海外からの優れた研究者にとって、魅力ある質の高い住環境を形成し、個性あるものとしめます。

- ①様々な対象に供給しうる住宅地の形成…研究者、学生、留学生、一般市民等への様々なタイプの供給
- ②変化のある個性的な住宅ゾーン…単一的な住宅地とならないように、街区単位でイメージを変え、ポケットスペース等の確保
- ③大型敷地の供給…緑やゆとりのある一戸建て住宅地形成のための大型敷地の供給

6. 事業による効果

- (1) 大学や研究所及び住宅の配置を行った複合機能型のまちづくりにより、若者が集まるまち、職住近接のまちとして、地域の活性化が図られます。

- (2) センター地区に、周辺地域に不足している市民センターや図書館等の公共施設、大学関係者や研究者等の宿泊施設、生活利便施設を設置することにより、研究者も含め、地域住民の利便性向上が図られます。

- (3) 住宅地は、既存の自然環境に配慮し、緑に囲まれ、ゆとりある敷地を確保することにより、21世紀に向けた良好な住環境が図られます。

- (4) 現在の緑多い環境を可能な限り残す造成計画により、緑豊かな学園都市ができます。

- (5) 幹線道路が整備されることにより、北九州市の都心及び副都心からの交通アクセスが確保され、大学・研究所等の施設はもとより、地域住民の利便性が向上します。

7. まとめ

「学術・研究都市」の事業は、全国各地で行われていますが、その中で、いかに北九州らしさをアピールするかが課題です。

北九州学術・研究都市整備事業のように、大きなプロジェクトはハード整備が先行しがちです。ハードは金さえかければ出来ませんが、これからの街づくりは、ソフト施策がしっかりしていないと魅力ある街にはならないし、付加価値も上がりません。行政主導でハード施設を整備しても、維持管理や運営までを行政主導というわけにはいきません。幸い、地元で街づくりを考える組織もでき、市民一人一人が自分達の街は自分達で良くしていくんだという、意識を持ちはじめています。市民と行政がしっかりスクラムを組んで、北九州らしい「学術・研究都市」づくりを進めていきたいと考えています。

